

投資家の皆さまへ

2009年2月

頭取 中西 勝則

Dream with you.



静岡銀行



目次

営業基盤としての静岡県

経済規模	2
静岡県経済の位置づけ	3
静岡県の経済動向	4
静岡銀行の高い信頼性	5

平成20年度第3四半期決算の概要

第3四半期決算の状況	6
貸出金の状況	7
不良債権の状況	8
与信費用	9
有価証券の状況①	10
有価証券の状況②	11
地域密着型金融への取り組み	12
フロント業務特化型店舗の取り組み	13
経費および投資・人員計画	14
業績予想および株主還元の状況	15

資料編

預金等の状況	16
預り資産の状況	17
手数料収益	18
預貸金利回りの状況	19
法人部門の取り組み	20
個人部門の取り組み	21
自己資本比率の状況	22
グループの状況	23

営業基盤としての静岡県

Dream with you.



静岡銀行

- 全国シェア3%、都道府県10位の経済圏
- 県内総生産は日本の中では四国4県、北陸3県を上回る規模
- 世界各国の国内総生産との比較では、タイ、香港、アルゼンチンに次ぐ規模

静岡県の指標

	全国シェア		全国順位
●人 口	380万人	3.0%	10位/47(2007年)
●世帯数	140万世帯	2.7%	10位/47(2007年)
●県内総生産(実質)	16兆円	3.2%	10位/47(2005年度)
●1人当たり県民所得	3,389千円	—	3位/47(2006年度)
●事業所数	19万事業所	3.2%	10位/47(2006年)
●製造品出荷額等	18兆円	5.8%	3位/47(2006年)
●農業産出額	2,443億円	2.8%	13位/47(2006年)
●漁業生産量	22万トン	3.9%	5位/47(2007年)
●工場立地件数	124件	6.9%	1位/47(2007年)
●新設住宅着工戸数	3.7万戸	3.5%	10位/47(2007年)

静岡県の経済規模

県内総生産(2005年度)		
順位	都道府県・地域	(10億ドル)
9	福岡県	159.7
10	静岡県	144.9
11	広島県	105.9
—	四国4県	119.2
—	北陸3県	111.7
世界各国の国内総生産と比較(2004年)		
順位	国名(地域)	(10億ドル)
32	タイ	163.4
33	香港	162.9
34	アルゼンチン	153.0
—	静岡県	148.5
35	マレーシア	117.7
36	イスラエル	117.5

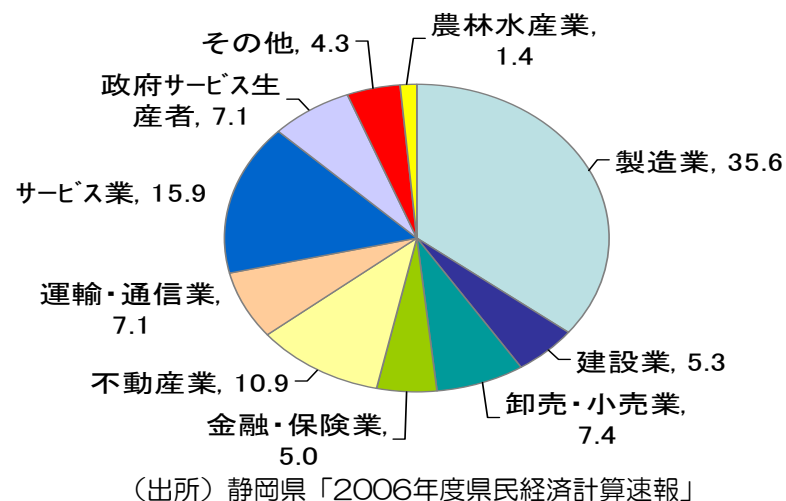
(出所) 内閣府経済社会総合研究所 ほか



静岡県経済の位置づけ

- 全国有数の「モノづくり県」
- 東京と大阪・京都の間に位置する物流の要衝
- 地場産業からハイテク産業まで多様な産業が集積し、健全な企業が多い
- 豊かな自然を生かした日本を代表する観光地を有する

静岡県の産業別総生産構成比



静岡県内に本社をおく上場企業

上場市場	企業数
東証1部	28
東証2部	10
マザーズ	1
名証2部	1
ジャスダック	27
計	67

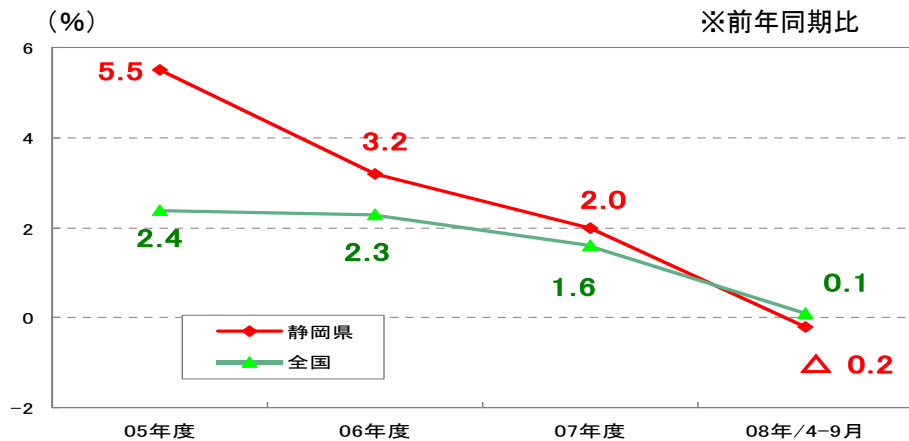
※2008年10月末現在、上場市場が複数ある場合は東証にてカウント



静岡県の経済動向

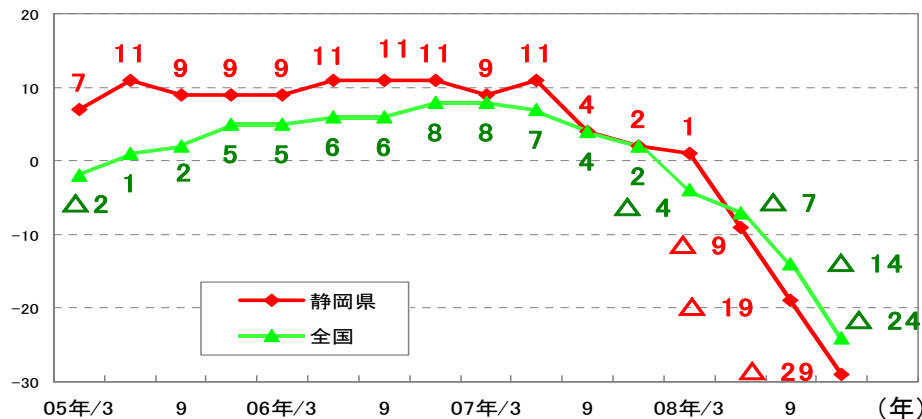
- 世界的規模の景気後退から、静岡県経済は悪化している
- 中小・零細企業を中心に、倒産件数が増加している

静岡県の実質経済成長率の推移



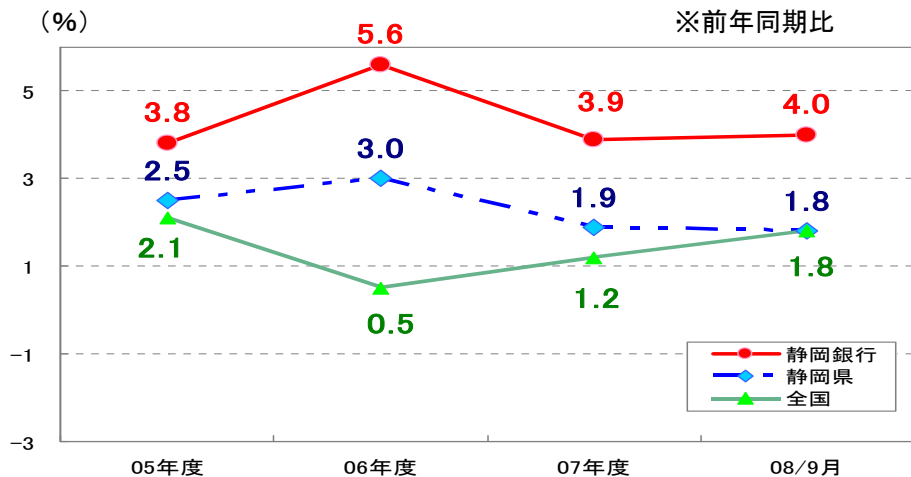
(出所) 静岡県企画部

静岡県の業況判断DIの推移



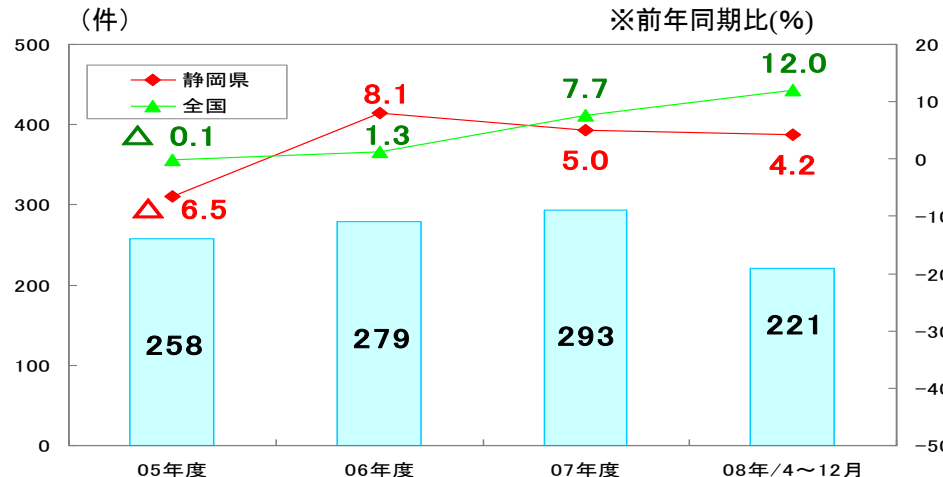
(出所) 日本銀行

静岡県の貸出金（末残）増減率の推移



(出所) 日本銀行

静岡県の倒産件数の推移



(出所) 東京商工リサーチ



静岡銀行の高い信頼性

- バーゼルⅡの適用開始に合わせ、リスク管理体制を整備
- S & P社による長期格付「AA-」に格上げ（2007年12月）、邦銀では最高水準

リスク管理態勢の高度化

- 「統合的リスク管理」をリスク管理の基本方針として明確化
- 自己資本比率の算出方法として、信用リスクは基礎的内部格付手法、オペレーショナルリスクは粗利益配分手法を採用

外部格付

〔長期格付〕		ムーディーズ社					
		Aa2	Aa3	A1	A2	A3	Baa1
S & P 社	AA-		静岡				
	A+	農林中金、信金中央金庫、 三菱東京UFJ、三菱UFJ信託、 みずほ、みずほコーポレート、 みずほ信託、三井住友	住友信託				
	A		中国	横浜、千葉、常陽、肥後、 中央三井信託			
	A-			群馬、りそな		あおぞら	
	BBB+					広島、福岡、 新生	

平成20年度第3四半期決算の概要

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

静岡銀行



第3四半期決算の状況

《連結》

(億円)

	07年度 第3四半期	08年度 第3四半期	前年同期比
経常収益	1,856	1,739	△117
経常利益	516	154	△362
四半期(当期)純利益	285	87	△198

《静岡銀行単体》

(億円)

	07年度 第3四半期	08年度 第3四半期	前年同期比
経常収益	1,615	1,537	△77
業務粗利益	1,087	1,088	+1
資金利益	923	972	+50
役務取引等利益・特定取引利益	151	133	△18
その他業務利益	14	△17	△31
(うち国債等債券関係損益)	(△4)	(△38)	(△34)
経費 (△)	586	597	+10
基礎的業務純益 ※	505	529	+24
一般貸倒引当金繰入額 (△)	3	94	+91
業務純益	498	397	△101
臨時損益	△20	△266	△246
うち不良債権処理額 (△)	71	144	+73
うち株式等関係損益	44	△126	△170
経常利益	478	131	△347
四半期純利益	279	86	△193

※基礎的業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

(億円)

〔資金利益内訳〕

	08年度 第3四半期	前年同期比
国内業務部門	916	+14
うち貸出金利息	927	+11
有価証券利息配当金	281	△55
預金等利息 (△)	180	△43
国際業務部門	57	+36

〔与信費用〕

(億円)

与信費用(△)	238	+164
うち一般貸倒引当金繰入額(△)	94	+91
個別貸倒引当金繰入額(△)	135	+64

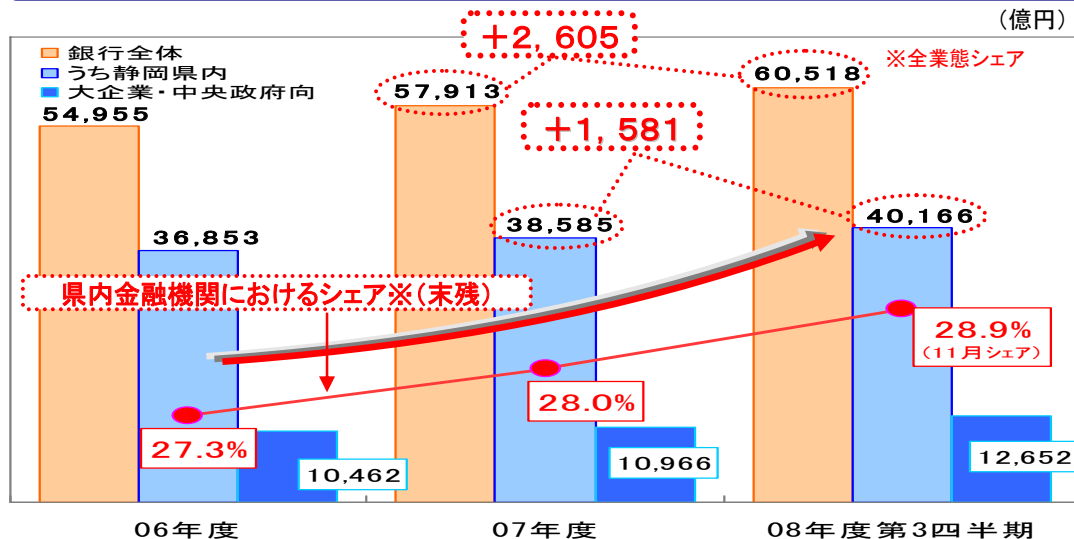
〔株式等関係損益内訳〕

(億円)

株式等関係損益	△126	△170
うち株式等売却益	8	△56
株式等償却	△132	△114

貸出金の状況

総貸出金残高（平残）の推移



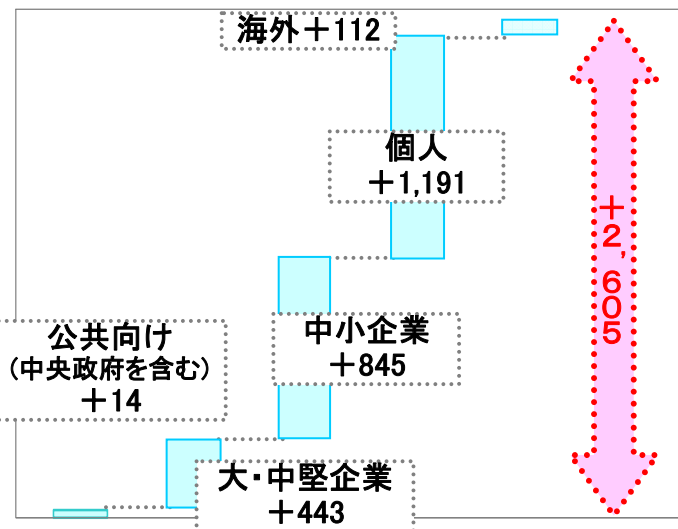
●08年度第3四半期の総貸出金残高（平残）は60,518億円と前期比+2,605億円の増加

- ・ 中小企業向け貸出金残高25,220億円
前期比+845億円（うち県内+559億円）
- ・ 個人向け貸出金残高19,353億円
同+1,191億円（うち県内+869億円）
- ・ 緊急保証等の申込4,108件／1,304億円
（県内シェア53%）
実行3,447件／1,012億円

貸出金（平残）の増減内訳

【増減額内訳（前年度比）】

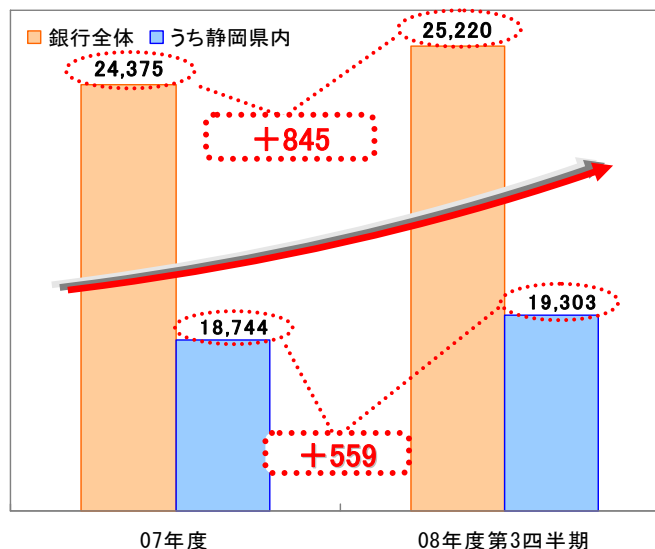
(億円)



うち中小企業向け貸出金残高（平残）の推移

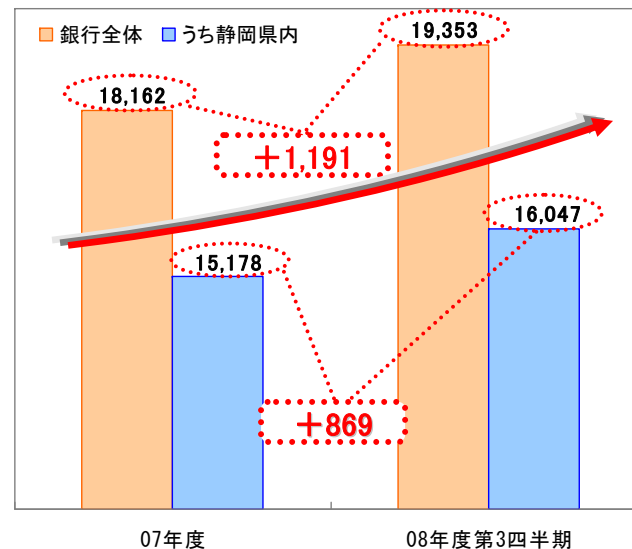
※地方公社を含まない

(億円)



うち個人向け貸出金残高（平残）の推移

(億円)





不良債権の状況

リスク管理債権の状況（単体ベース）

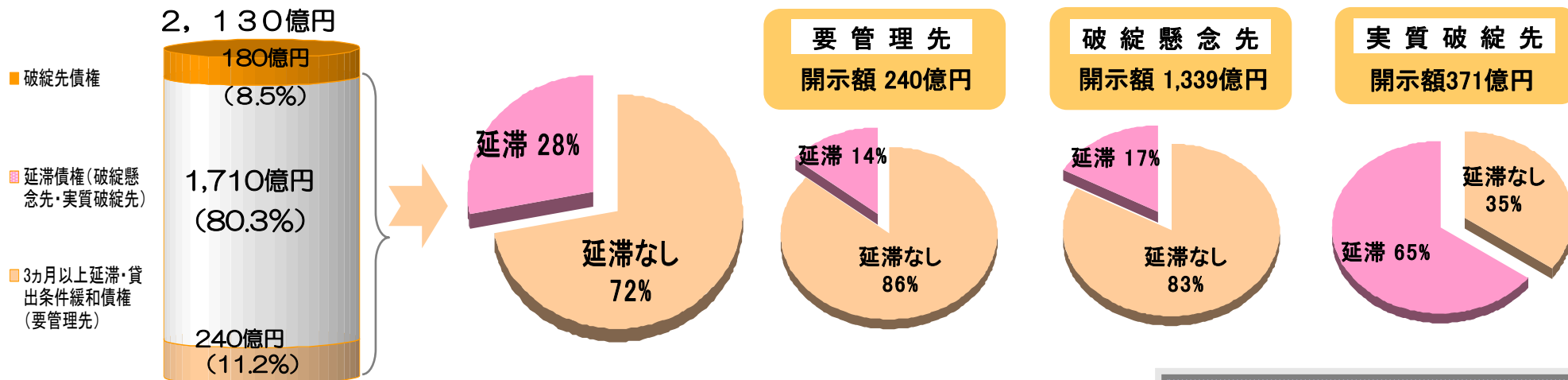
- 08年12月末のリスク管理債権の総額は2,130億円（08年3月末比+175億円）
- リスク管理債権の割合は3.31%（08年3月末比 +0.02ポイント）

～部分直接償却を実施した場合の198億円と、信用保証協会の保証付貸出金の965億円を控除した場合のリスク管理債権総額は966億円、部分直接償却額を控除した総貸出金に占める割合は1.50%（08年3月末比△0.05ポイント）

～部分直接償却を実施した場合のリスク管理債権比率は3.01%（同△0.05ポイント）

・破綻懸念先以下 +219億円
・3カ月以上延滞債権
貸出条件緩和債権 △44億円

08年12月末リスク管理債権の内訳



不良債権のオフバランス化実績

	06年度	07年度	08年度上期	08年度 3Q (3カ月)
新規発生	+489	+693	+351	+334
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△715 (△604)	△706 (△600)	△316 (△271)	△193 (△112)
リスク管理債権	1,968	1,955	1,990	2,130

+175

【内訳】 (億円)

要管理先	27
破綻懸念先	187
実質破綻先・破綻先	119

【内訳】 (億円)

本人弁済・預金相殺	26
担保処分・代位弁済	70
格上げ	16



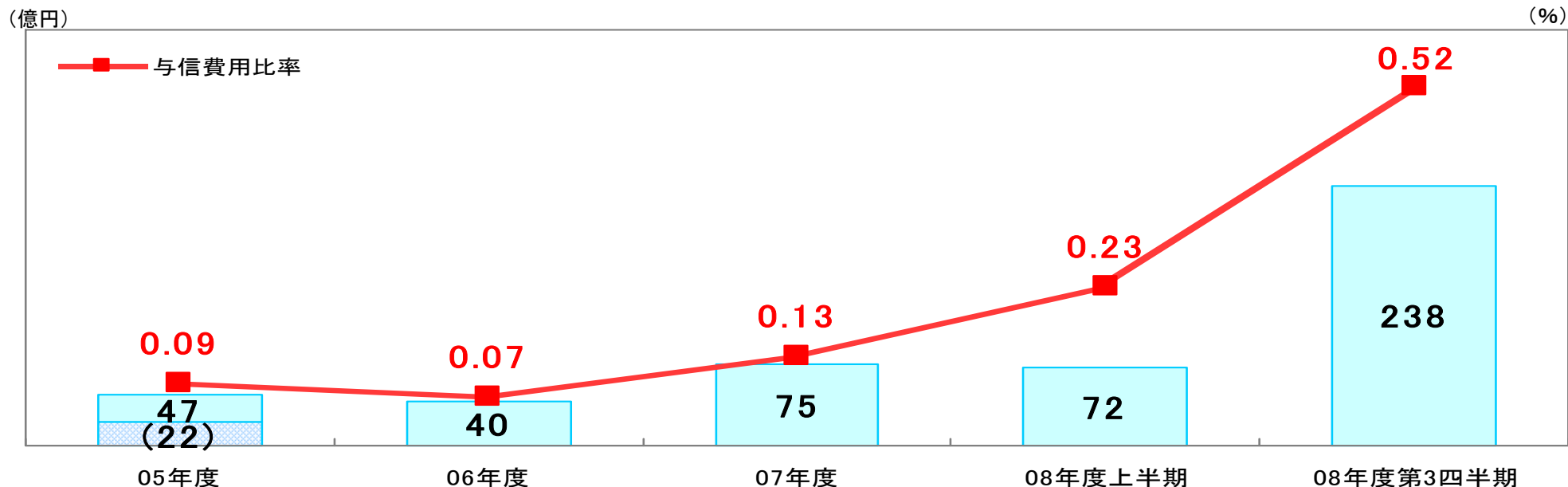
与信費用

与信費用：08年度第3四半期 238億円（前年同期比＋164億円）

- 一般貸倒引当金繰入額 94億円（前年同期比＋91億円）
- 不良債権処理額 144億円（ 〃 ＋73億円）
（うち個別貸倒引当金純繰入額135億円）

・債務者区分の変更等 166億円
・担保評価下落等 12億円
・格上、回収等による
個別引当金取崩 $\Delta 43$ 億円
合計 135億円

与信費用・与信費用比率の推移



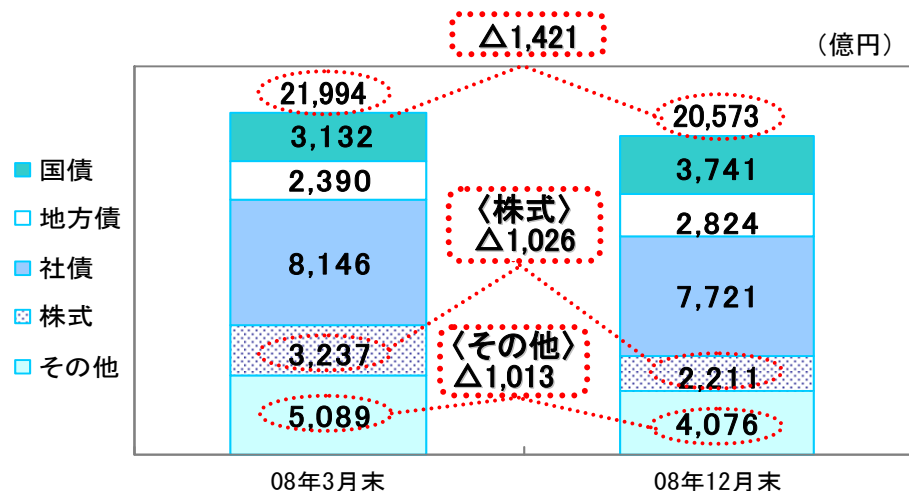
※与信費用＝不良債権処理額＋一般貸倒引当金繰入額－貸倒引当金取崩額、与信費用比率＝与信費用÷貸出金平残
17年度の（ ）は、貸倒実績率の算定期間変更による特殊要因を控除した場合



有価証券の状況①

- 08年12月末の有価証券残高は20,573億円と08年3月末比△1,421億円の減少
- 08年12月末の株式・債券・投資信託等の有価証券評価損益は+827億円と08年3月末比△935億円、うち株式評価損益は+772億円と08年3月末比△998億円の減少

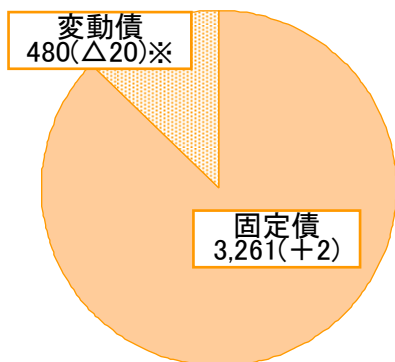
有価証券残高の推移



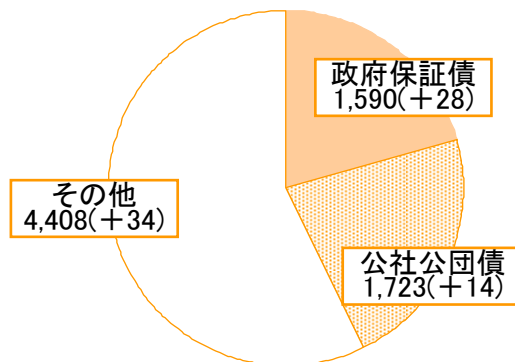
債券平均残存期間・有価証券評価損益の推移

	08年3月末	08年12月末
平均残存期間(円貨)	3.26年	3.57年
平均残存期間(外貨)	1.39年	1.59年
有価証券評価損益	1,762億円	827億円
うち株式	1,770億円	772億円
日経平均株価	12,525.54円	8,859.56円

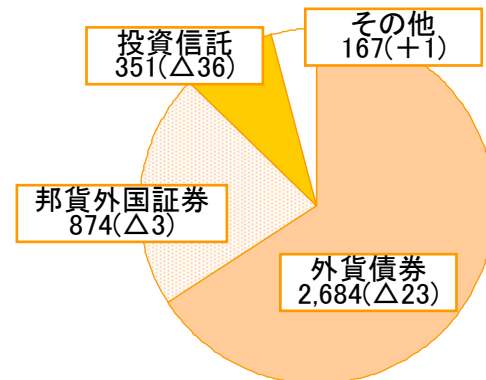
国債3,741億円の内訳



社債7,721億円の内訳



その他4,076億円の内訳



＃()内は評価損益

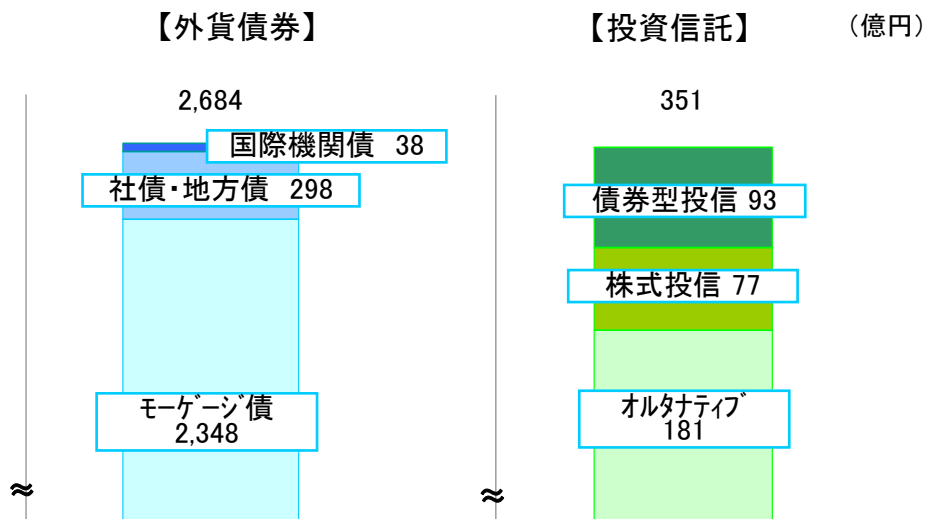
※変動債の時価評価は従来とおり市場価格で評価しています



有価証券の状況②

- サブプライム関連商品、モノライン関連商品は保有していない
- 欧米破綻金融機関の関連商品も保有していない

外貨債券および投資信託の内訳



モーゲージ債の内訳 (億円)			
	(簿価)	08/3比	(評価損益)
ジニーメイ	2,071	△219	+7
ファニーメイ	31	△8	△1
フレディマック	247	△55	△18

証券化商品の内訳

	(億円)	
	08年3月末	08年12月末
RMBS	3,466	3,072
(うち 円貨)	835	723
(うち Alt-A)	0	0
ABS	20	0
CDO・CLO	0	0
CMBS	0	0
信託受益権※	116	102

※買入金銭債権に計上しています

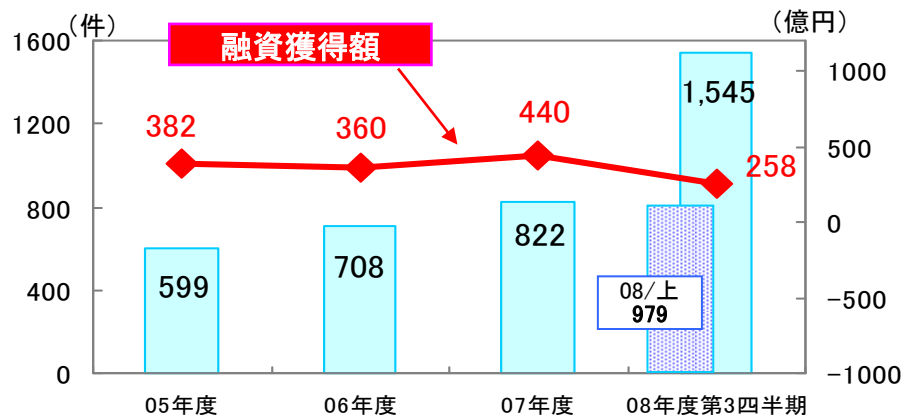
オルタナティブの内訳 (億円)			
	(簿価)	08/3比	(評価損益)
グローバルマクロ	129	△92	△20
株式ロングショート	32	△89	△5
債券アービトラージ	20	△16	△0



地域密着型金融への取組み

- ビジネスマッチング、次世代経営者塾「Shizuginship」に取組み、取引先の事業拡大・後継者育成に寄与
- 地域経済に与える影響が大きい企業を中心に各種再生手法を活用し、迅速かつ円滑な事業再生を支援

ビジネスマッチングの成約実績および融資獲得額



〔主な商談会〕

- しずぎん@gricom
- 東京ビジネスミット2008「静岡夢街道」
- 上海ビジネス商談会2008 ほか

次世代経営者塾「Shizuginship」

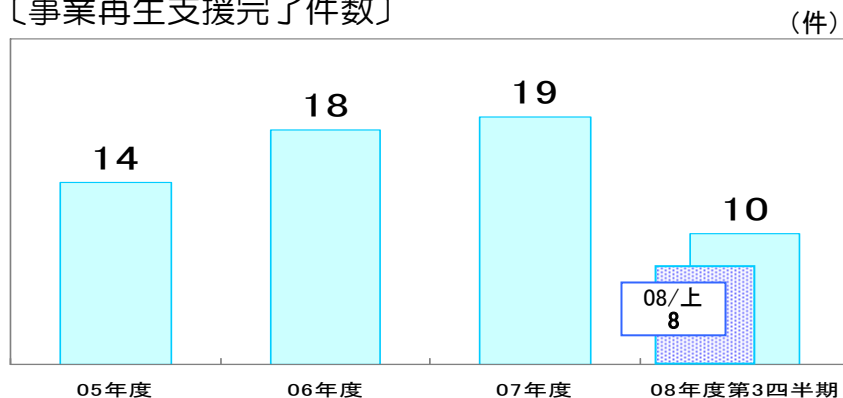
Shizuginship

- 会員数（08年12月末）
754社、1,149名
- セミナー・視察会の開催
（4～12月累計）
地域フォーラム2回
セミナー12回
ゼミナール20講座
視察3回
のべ参加者数2,181名



事業再生への取組み

〔事業再生支援完了件数〕



〔事業再生に活用した手法〕

		08年度第3四半期
全 体	(件)	10
静岡中小企業支援ファンド「スクラム」		2
再生型バルクセール		2
資産売却		3
事業譲渡・M&A		2
民事再生		1



フロント業務特化型店舗の取組み

- 構築を進めてきたフロント業務特化型店舗や少人数で運営するミニ店舗「しずぎんマイプラザ」がスタート
- 融資の営業と事務を一貫処理体制を支える新融資支援システム「S-navi」が全店稼働



▲外装・内装にコーポレートカラーのノーブルレッドを用いた帯状のサインを設置



▲ロビー入口に総合受付カウンターを設置し、フロア担当が来店客の用件に応じて誘導する



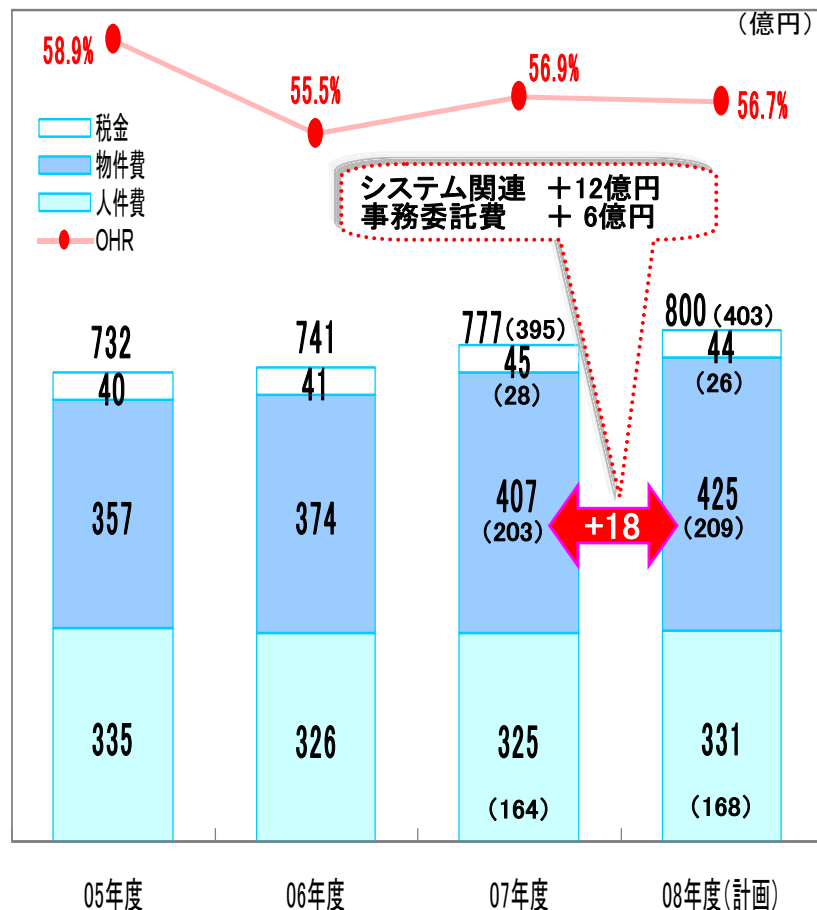
▲公共料金納付等の専用窓口を設置、ハイカウンター窓口凹凸を設け お客さまのプライバシーに配慮



経費および投資・人員計画

- 08年度経費は、営業店の生産性向上のための業務効率化、および業務推進施策の展開により増加を見込む
- OHRは55%を目安として、適切にコントロールしていく

経費およびOHRの推移



※ () は中間期の経費

投資額の推移

※キャッシュアウトベース (億円)

〔主な投資額〕	06年度	07年度	08年上期	08年度計画
システム関連	53	127	37	86
店舗関連	41	23	25	95
合計	94	150	62	181

〔経費〕

システム関連	109	124	62	136
--------	-----	-----	----	-----

人員の推移

(人)

	08年3月末	08年12月末	増減	11年3月末計画
銀行全体	5,164	5,333	+169	4,680
うち行員	2,851	2,879	+28	2,720
営業店	4,104	4,293	+189	3,715
フロント	2,411	2,701	+290	2,890
バック・アシスト	1,693	1,592	△101	825
本部ほか	1,060	1,040	△20	965
グループ全体	7,085	7,243	+158	7,220



業績予想および株主還元状況

- 2008年度の1株当たり中間配当額は7円
- 2008年度の1株当たり配当額（年間）については、「配当性向25%程度かつ大手地銀最高水準」の配当維持を目指し、市場動向、業績等を総合的に勘案して決定する方針のもと、14円を予定

業績予想

(億円)

【連結】	08年度予想	(11月公表値)
経常収益	2,250	2,250
経常利益	275	445
当期純利益	151	252

(億円)

【単体】	08年度予想	(11月公表値)
経常収益	1,980	1,980
業務純益	555	590
基礎的業務純益	680	660
経常利益	250	415
当期純利益	150	250

配当額の推移

()は中間配当額

	07年度	08年度予想
一株当たり配当額(年間)	13.00円	14.00円(7.00円)
配当利回り(配当/期末株価)	1.10%	—

株主への利益配分の状況

(単位:億円、%)

	08年度予想	98～07年度 (10年間)
年間配当額①	98	601(累計)
自己株式取得額②	—	941(累計)
株主還元額③=①+②	98	1,542(累計)
当期純利益④	150	2,458(累計)
配当性向①/④×100	65.33	24.44(平均)
株主還元率③/④×100	65.33	62.73(平均)

資料編

Dream with you.



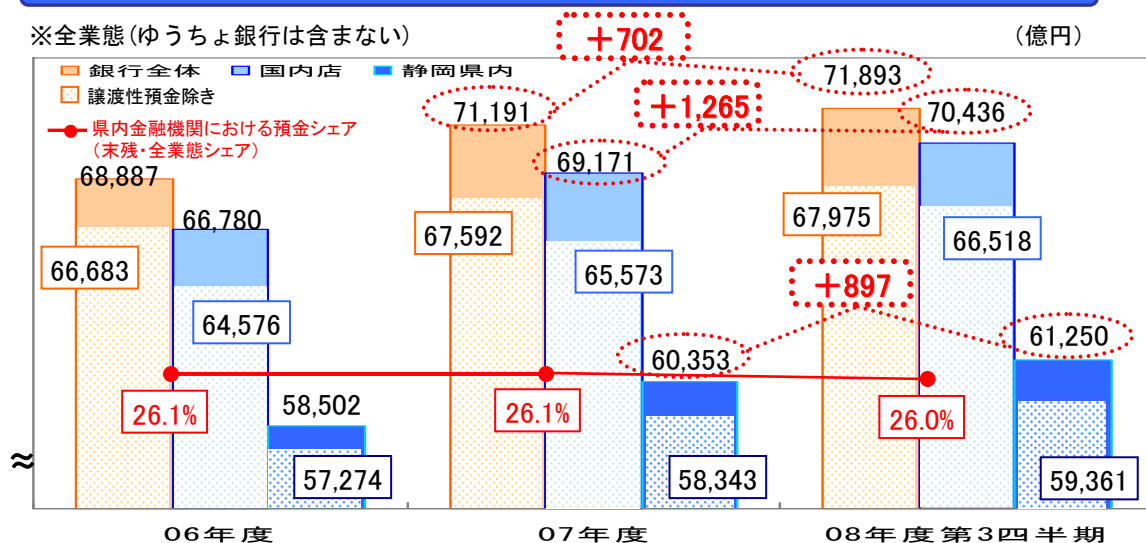
SHIZUOKA BANK

静岡銀行

預金等の状況

総預金等残高（平残）の推移

※全業態（ゆうちょ銀行は含まない）



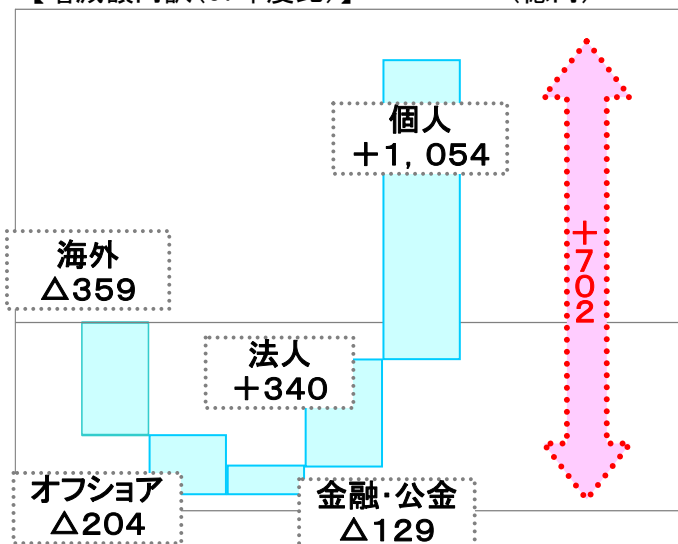
●08年度第3四半期の譲渡性預金を含む総預金等残高（平残）は71,893億円と前期比+702億円の増加

- ・国内営業店預金等残高70,436億円
前期比+1,265億円
- ・静岡県内預金等残高61,250億円
同+897億円
- ・個人預金等残高50,309億円
同+1,054億円
- ・法人預金等残高17,301億円
同+340億円
- ・預貸率85.6%、限界預貸率205.9%

総預金等残高（平残）増減額の内訳

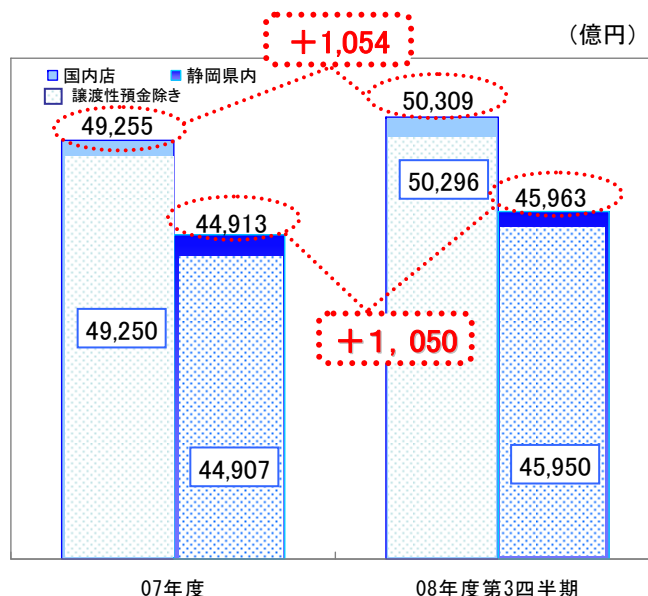
【増減額内訳（07年度比）】

（億円）



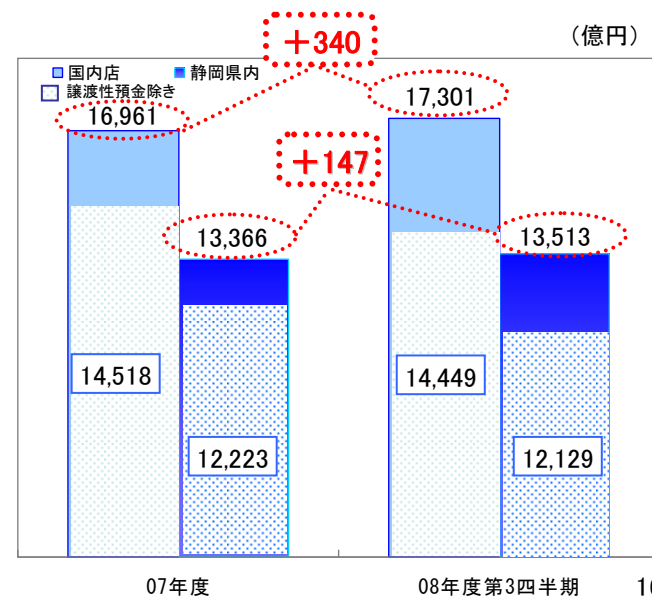
うち個人預金等残高（平残）の推移

（億円）



うち法人預金等残高（平残）の推移

（億円）

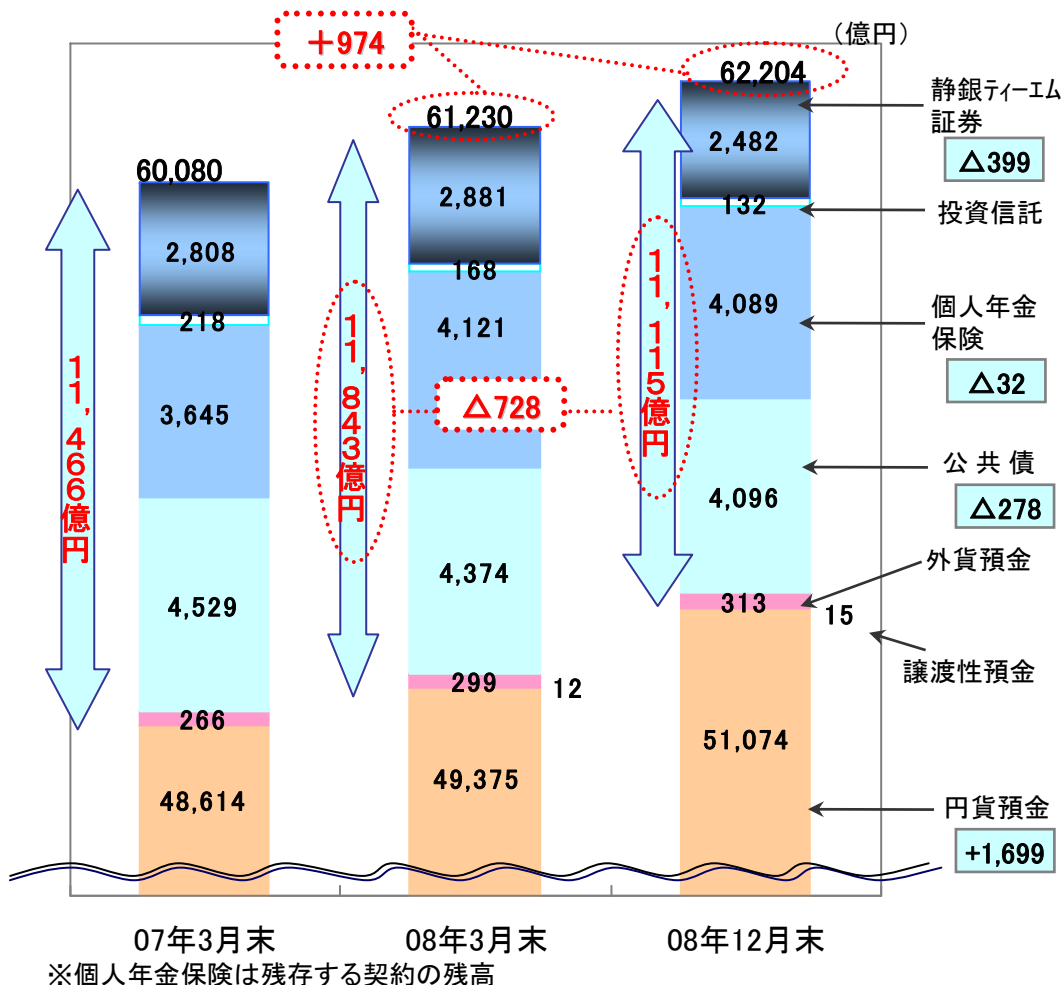




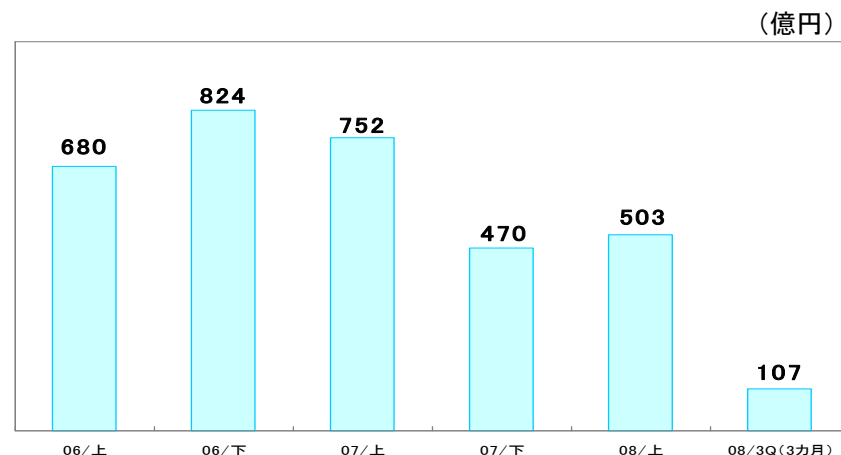
預り資産の状況

- 08年12月末の静銀ティーム証券(株)を含む個人預り資産残高は62,204億円（08年3月末比+974億円）、うち円貨預金および譲渡性預金を除く個人預り資産残高は11,115億円（同 △728億円）
- 投資信託、保険窓販は、市場環境の悪化により販売不振

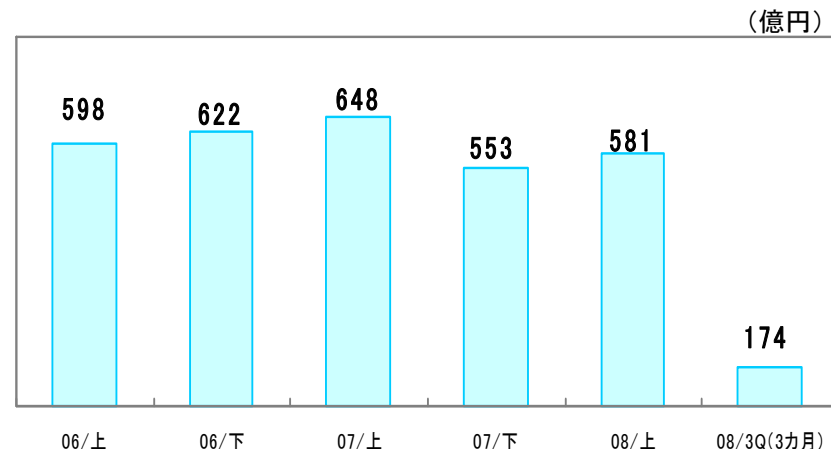
個人預り資産（末残）の推移



投資信託販売額（静銀ティーム証券含む）の推移



保険窓販額の推移

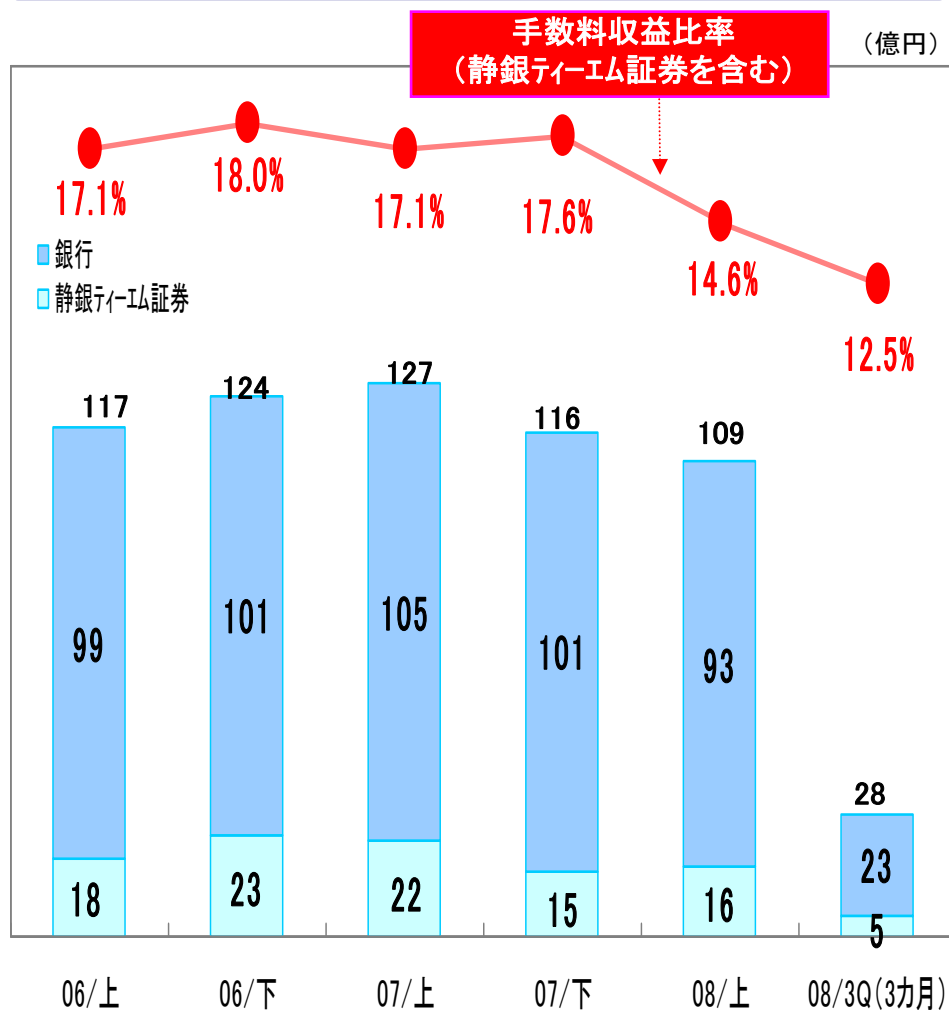




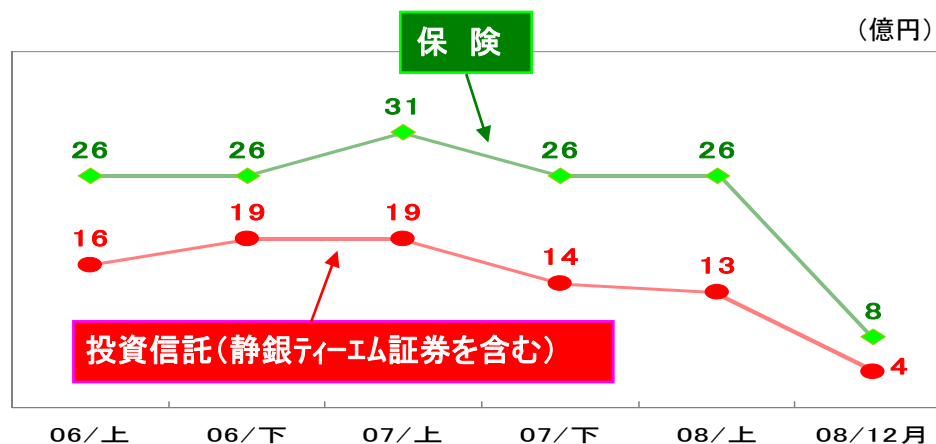
手数料収益

- 手数料収入は、投資信託、保険窓販の販売低迷により減少
- 手数料費用は、クレジットカード手数料を中心に増加

手数料収益（銀行・静銀ティーエム証券）



投資信託・保険窓販の手数料収益



手数料収入・費用

〔単体〕	08年度 第3四半期	前年同期比
手数料収入	175億円	△15億円
代理事務手数料 (保険窓販手数料など)	37億円	△11億円
受入雑手数料	64億円	+1億円
手数料費用	59億円	+1億円
支払雑手数料	22億円	+2億円



預貸金利回りの状況

- 08年12月の預貸金利回り差は、08年3月末比△0.04ポイントの低下

円貨貸出金・預金構成の変化（単月比較）

〔08年3月〕			〔08年12月〕		
	平残(構成比)	利回り		平残(構成比)	利回り
貸出金	5.8 (100.0)	2.04	6.1 (100.0)	1.96	
変動金利	4.2 (71.8)	2.07	4.4 (71.5)	1.95	
短プラ・新長プラ	2.6 (44.8)	2.52	2.6 (43.2)	2.36	
基準					
市場連動	1.5 (25.3)	1.20	1.6 (26.6)	1.21	
固定金利	1.6 (28.2)	1.96	1.7 (28.5)	1.99	

〔預貸利回り差〕

+1.77

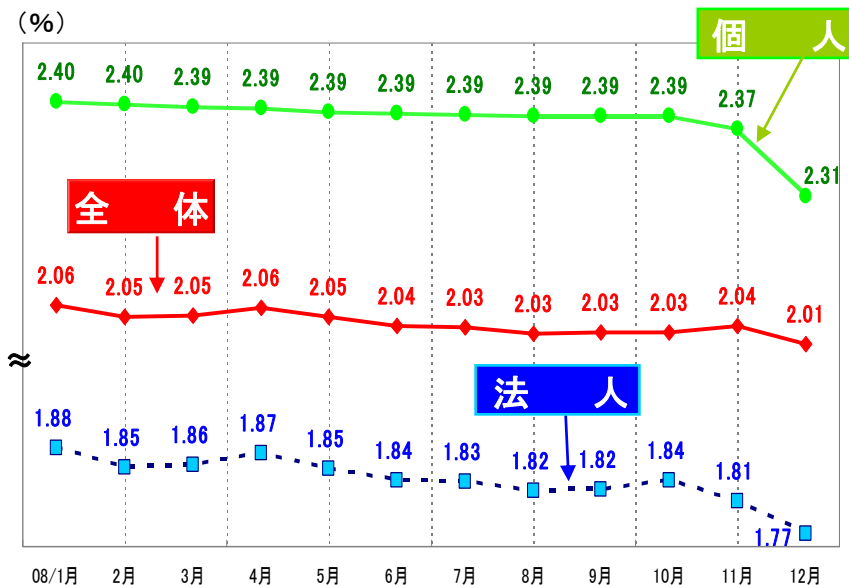
△0.04

+1.73

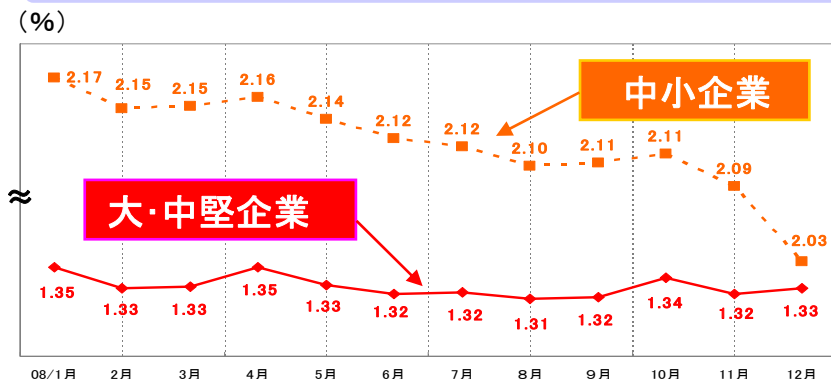
〔08年3月〕			〔08年12月〕		
	平残(構成比)	利回り		平残(構成比)	利回り
預金	7.1 (100.0)	0.27	6.9 (100.0)	0.23	
流動預金	4.0 (56.3)	0.17	3.8 (55.1)	0.07	
定期性預金	2.7 (38.7)	0.39	2.8 (40.9)	0.41	

※預金は譲渡性預金を含む

貸出金利（月中平均）の推移



うち企業規模別法人貸出金利の推移





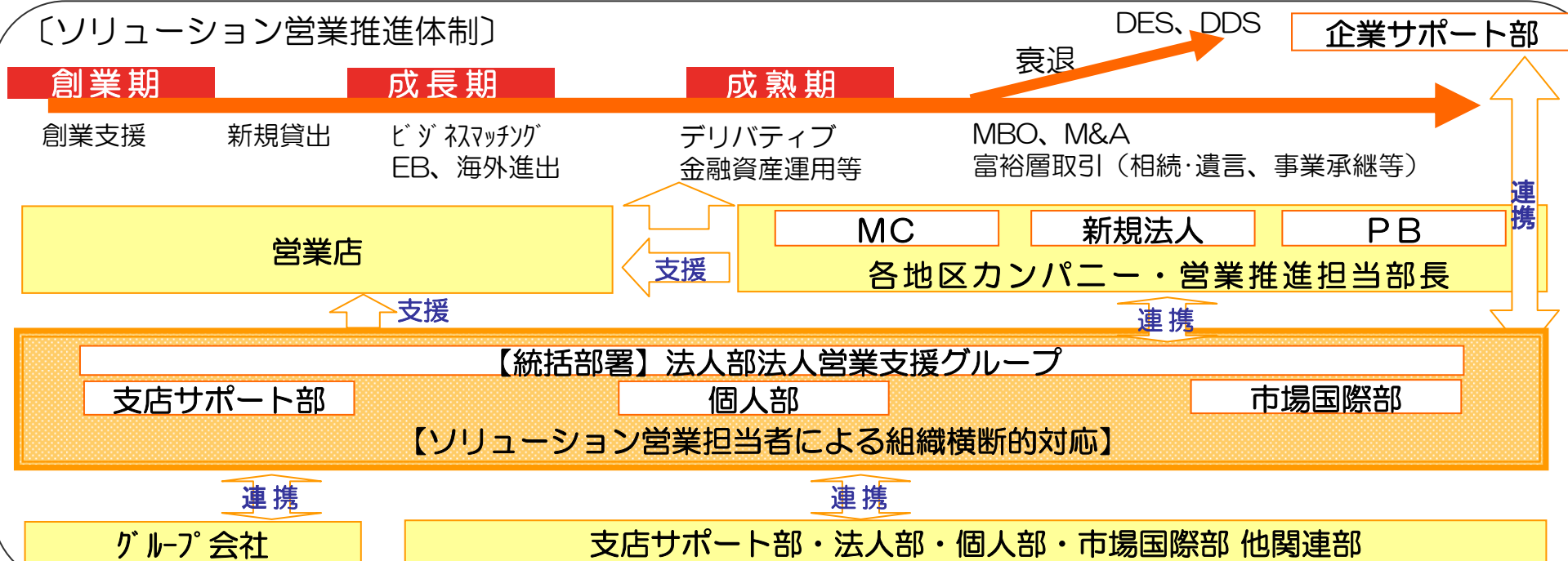
法人部門の取組み

ソリューション営業の高度化による渉外営業力の強化

- 取引先のライフサイクルに応じたさまざまな経営課題の解決やニーズに適した提案を行うソリューション営業の高度化を図り、取引先とのリレーションを強化することで、総合取引を推進

営業店	本部等
- 本部・地区カンパニーの支援や、情報・ツール等を活用して、ソリューション営業を実践 - 地公体へのアプローチによるビジネスチャンスの発掘	- ソリューション営業統括部署として、平成20年4月に「法人部法人営業支援グループ」を設置 - 本部関連部のソリューション営業担当者が、地区カンパニーやグループ会社等と連携して、組織横断的に営業店のソリューション営業を支援

〔ソリューション営業推進体制〕

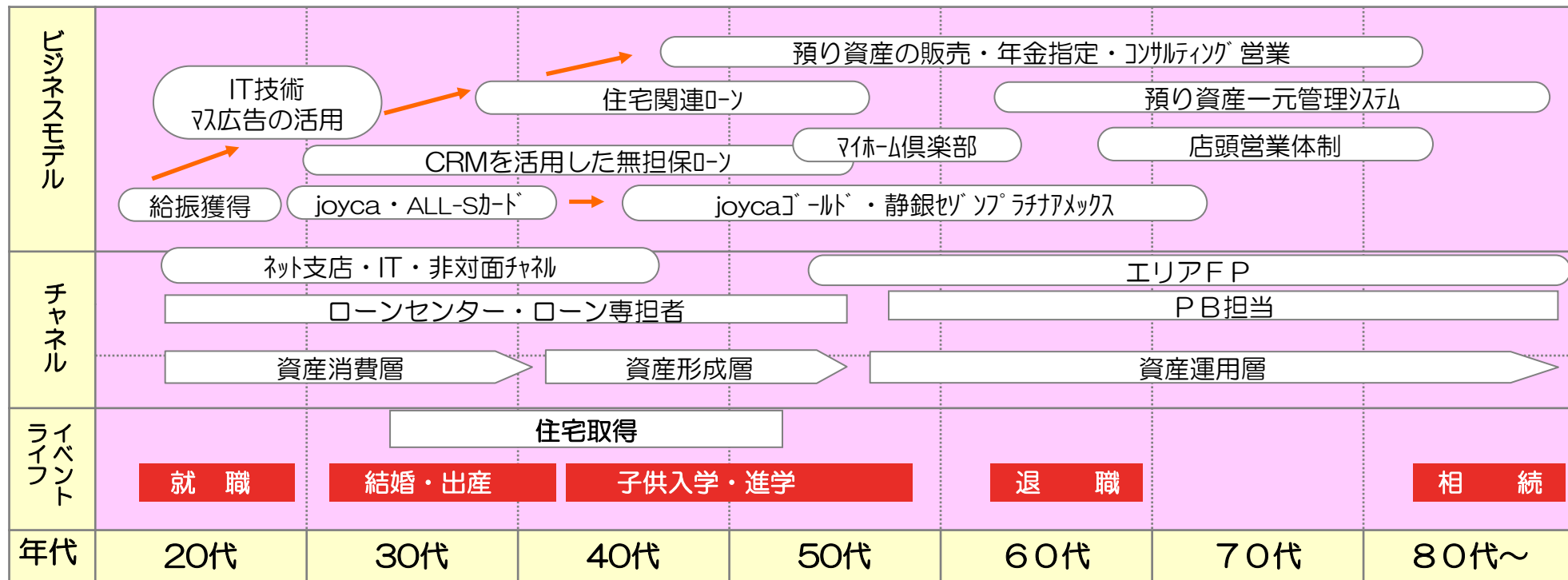




個人部門の取組み

- 団塊世代退職による退職金や団塊ジュニア世代の住宅取得がピークを迎えるほか、保険業法・貸金業法などの法制度改正により、個人マーケットの拡大が見込まれることから、地域を重視した営業推進によりシェア拡大を図る
- ITやCRM技術の活用、広告宣伝などの経営資源の投入により、担当者の生産性を向上を図る
- ローンについては、新商品の投入等により増強を図る

<個人部門戦略概念図>

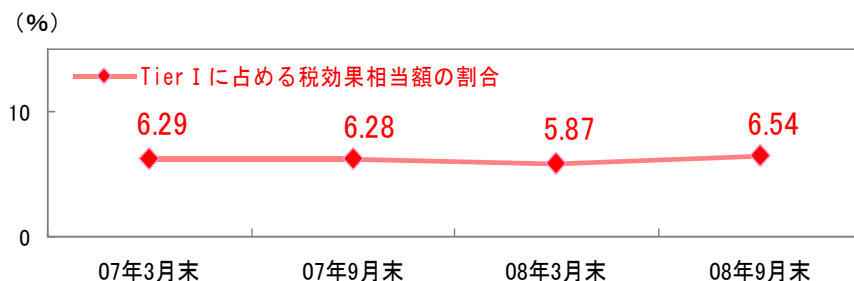
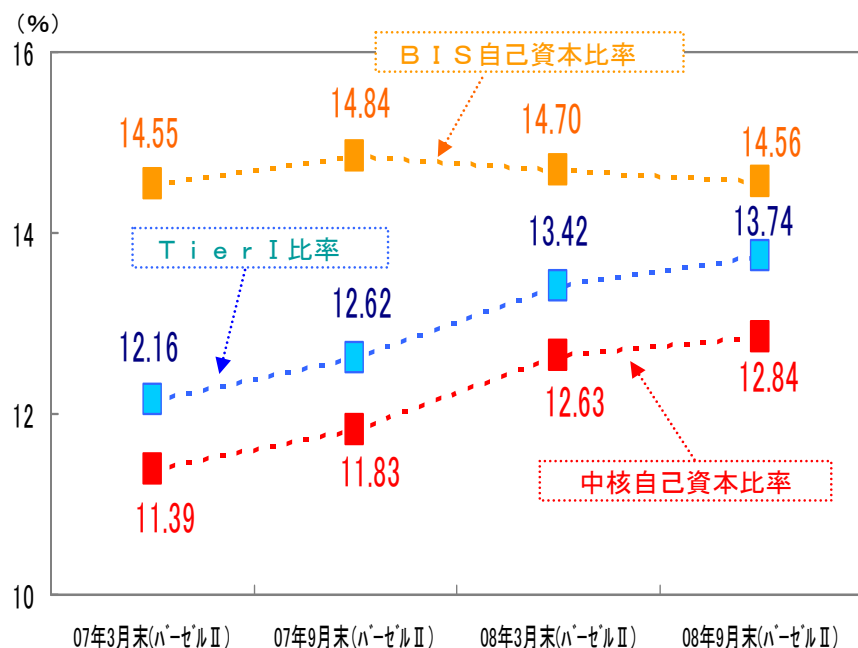




自己資本比率の状況

- 2008年9月末のバーゼルⅡによる連結自己資本比率は14.56%と、有価証券含み益の減少によるTierⅡの減少などにより、2008年3月末に比べ△0.14ポイントの低下
- リスク・アセット等については、株式やリスクウェイトの高い投資信託を中心に、信用リスク・アセットの額が減少したことを主因に、2008年3月末に比べ△578億円の減少

BIS自己資本比率（連結ベース）



自己資本およびリスク・アセット等の推移

	(億円)				
	07年 3月末	07年 9月末	08年 3月末	08年 9月末	08年 3月末比
自 己 資 本	6,919	7,002	6,504	6,359	△145
うち Tier I	5,785	5,953	5,938	6,001	+63
うち 税 効 果 相 当 額	364	374	349	393	+44
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等	47,549	47,159	44,232	43,654	△578
うち 信 用 リ ス ク ・ ア セ ッ ト の 額	44,620	43,730	40,895	40,519	△376
うち マーケット・リスク 相 当 額 に 係 る 額	220	241	220	225	+5
うち オペレーショナ ル・リスク 相 当 額 に 係 る 額	2,709	2,786	2,837	2,911	+74

※バーゼルⅡの計算方法は、信用リスクが基礎的内部格付手法、オペレーショナルリスクが粗利益配分手法を採用

アウトライヤー比率（08年第3四半期：単体ベース）

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
729億円	6,367億円	11.5%

グループの状況

営業エリアの広域化
地域シェアの拡大

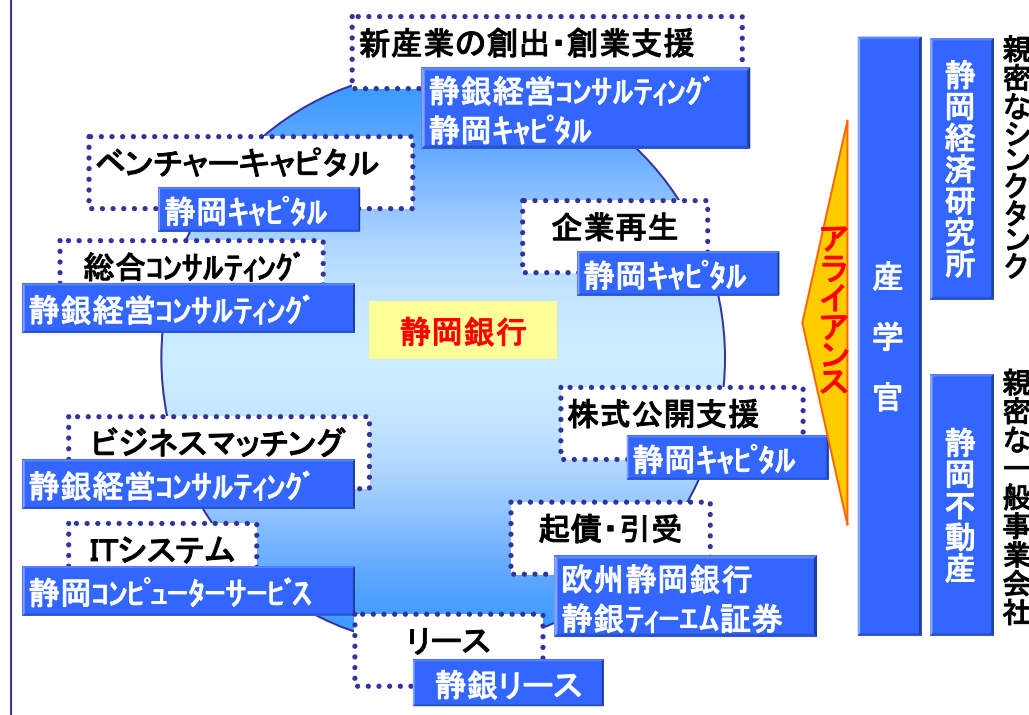
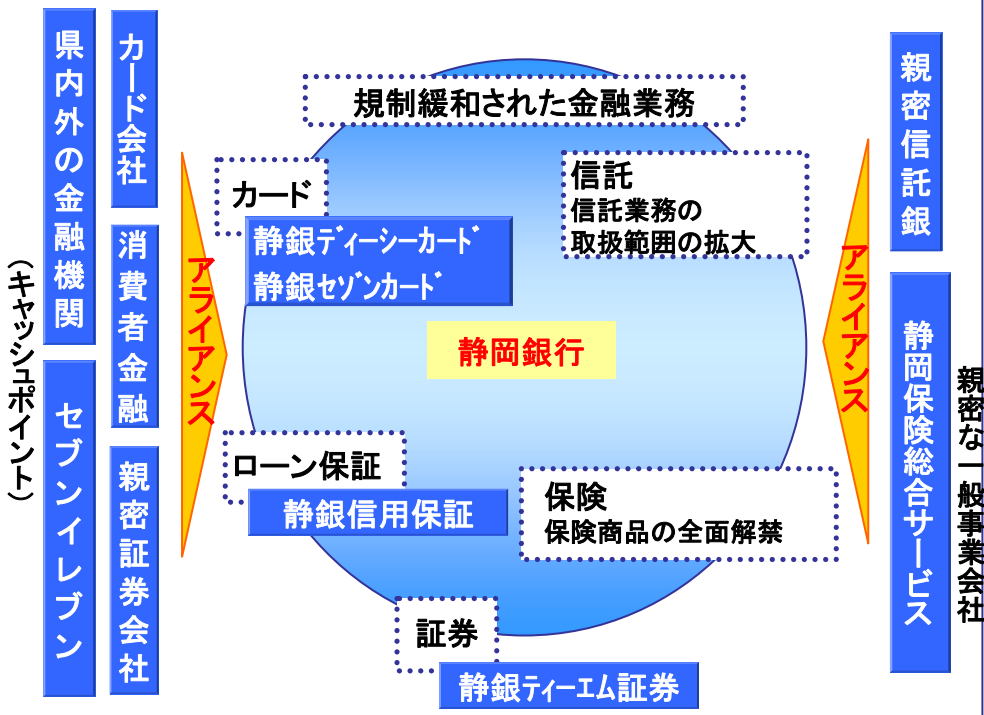
グループ事業価値の持続的な成長

「企業の社会的責任」「地域との一体化」

経営システムの標準化
戦略的資本政策の展開

個人市場
〈金融サービスのワンストップ化〉

法人市場
〈新産業の創出・創業支援から企業再生まで〉



グループの基盤を支える会社

グループの一層の効率化・コスト競争力の強化へ
規制緩和による外部収益の拡大へ(事務の受託業務)

静銀ビジネスクリエイト

静岡モーゲージサービス

静銀総合サービス

アライアンス

メガバンク等

県内外の地域金融機関等

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。